

あかるく かしこく たくましく

令和6年1月17日 No. 43 文責：校長 佐野紳二

「初夢」ってどんな夢？

最近、歳をとったせいもあるのでしょうか、夢をよく見ます。どんな夢を見たかは朝起きると思い出せないことが多く、ほとんど覚えていないのですが、一晩のうちに2つ3つの夢を見ることも珍しくないような気がします。加齢とともに眠りが浅くなってきたからかなあ…なんて思ったりもしますが、楽しい夢を見た翌朝は何となく気分がいいこともあったりするので、あまり気にしないようにしています。

この時季に夢といえば「初夢」なんていう言葉が頭に浮かびます。そんなわけで、初夢のことが気になったので、ちょっと調べてみました。今日は「初夢」について、お付き合いください。



初夢って、いつ見る夢のこと？

初夢について辞書で調べてみると、次のように書かれていました。

【初夢】 元日の夜に見る夢。また、正月二日の夜に見る夢。古くは、節分の夜から立春の明け方に見る夢。（広辞苑より）

江戸時代には上の2つに加えて、「大晦日から元日」という説もあり、諸説様々なようです。江戸時代後期には「2日から3日」が主流だったそうですが、明治の改暦後から現代にいたるまでは「元日から2日」とする人が多くなったようです。

また、広辞苑には初夢という言葉がいつから使われ始めたかについても書かれていました。それによると、初夢という言葉が最初に文献に登場するのは、平安時代末期から鎌倉時代に西行法師が作った『山家集』という和歌集で、その中にある「年暮れぬ 春来べしとは 思ひ寝に まさしく見えて かなふ初夢」という歌が初夢という言葉の由来になっているそうです。この歌の現代訳は、「今年も一年が暮れた。穏やかな春が来るに違いないと、そんな気持ちで眠ると思ったとおりの世の中になっている。そんな初夢を見た」という感じになるそうです。平安時代末期から鎌倉時代と言えば、平家の世の中が源氏の統治に移り変わる時期ですから、きっと戦乱の続く世の中だったのでしょう。そんな中で、「平和な年が来ますように…」というのが西行法師の、そしてこの時代の人々の一番の願いだったのでしょうね。

一富士二鷹三茄子

初夢に見ると縁起が良いものを表すことわざに「一富士二鷹三茄子」があります。これは江戸時代のはじめから使われているようで、この3つが使われるようになった理由は、やはり諸説あるようです。

- ①徳川家ゆかりの地である駿河国での高いものの順。富士山，愛鷹山，初物のなすの値段。
- ②富士山，鷹狩り，初物のなすを徳川家康が好んだことから。
- ③富士は日本一の山，鷹は賢くて強い鳥，なすは事を「成す」
- ④富士は「無事」，鷹は「高い」，なすは事を「成す」という掛け言葉

なるほど…という感じですが、「初夢にこれらのものが出てきた」という人はどれくらいいるのでしょうか。私は（多分）一度も見たことがないので、「出てきたことあるよ！」という方は是非情報をお寄せください。

三茄子…の続きがある？

「一富士二鷹三茄子」には続きがあるという話を聞いたことがありますが、これは地方により諸説あるようなので、あまりはっきりとしたことは言えないようです。代表的なものは、

四扇（しおうぎ・しせん）、五煙草（ごたばこ）、六座頭（ろくざとう）

というものです。扇は何となくめでたい感じがします。煙草は「上に上がっていく煙が運氣上昇」を表し、座頭（座頭市の座頭です）は「毛がない＝怪我ない」ということらしいですね。ちなみに、さらに続きがあるという説もあり、「七丁髷（ちょんまげ）、八薔薇（ばら）、九歌舞伎（かぶき）」なんて言うそうです。

初夢を詠んだ有名な和歌

初夢について調べているとよく出てくるのが、次の和歌です。

長き夜の 遠の睡りの 皆目醒め 波乗り船の 音の良きかな

これをひらがなで書くと、

ながきよの とおのねふりの みなめさめ なみのりふねの おとのよきかな

となり、回文（上から読んでも下から読んでも同じ音になる文）となっています。「お正月（元日）の夜に、この『長き夜の…』が書かれた七福神の宝船の絵を枕の下に置き、歌を3回読み上げて寝るとよい初夢を見られる」と言われている、とても縁起のよい和歌なのだそうです。

初夢に使われている「夢」という言葉にもいろいろな意味があります。夜に見る「夢」はともかく、年の初めに一人一人が自分自身の夢（＝将来実現したい願い。理想）をしっかり思い描き、そこに向かって一歩ずつ着実に歩いていく、そんな1年にしたいですね。（なんて、無理矢理にまとめてみました）



始業式の中から

先週行われた3学期の始業式で、校長の話に続いて児童会代表の話がありました。紹介が遅くなりましたがとても素晴らしい内容だったので、どんな話だったか掲載させていただきます。

3学期をむかえるにあたって

児童会代表 ○○○○さん

今日から3学期が始まります。みなさんは有意義な冬休みを過ごせたでしょうか。また、3学期の学校生活をむかえる準備はできているでしょうか。

これまでに、運動会やゲーム集会、たてわり遊びや読み聞かせなどがあり、これらの児童会活動を通して、6年生を中心にたてわりでのきずなを深め、他学年とも仲良くなってきたと思います。今年度はあと少しですが、日々の生活やさまざまな活動を通して、全校のきずながさらに深まるようにしてほしいと思います。

また、2学期の終業式でも話がありましたが、「ろうかの右側を歩く」ことができていない人がいたため行った見まわり隊の活動では、呼びかけの成果もあり、守ることができる人がとても増えました。3学期はこのような活動がなくても、一人一人がろうかでは走らないように気をつけることができるといいと思います。さらに、大きな声であいさつをしたり、無言清掃をきちんとしたりするよう意識し、小笠原小学校がさらによくなるようにしていきましょう。みなさん、最後まで協力をお願いします。

最後に、3学期が始まるということは、6年生の卒業が近づいているということでもあります。それと同時に、各学年が一つ上の学年へと上がる準備をしなければならないということでもあります。6年生に今までの感謝の気持ちを伝えるとともに、次の学年に向けて自分の苦手なことにも挑戦していけるようにがんばりましょう。

